

見合った生産も需要の変動等から年度途中での修正を繰り返したので、生産者はその皺寄せを受けた。

酪農家は生産枠の中で経営を続ける状況下で、さらに追討ちをかけるように平成三年には牛肉の自由化が進められたので、牛肉価格が値下がりし肥育向け子牛価格も暴落した。

このため、乳子牛の生産と乳肉牛を生産してきた酪農家も肥育牛農家ともに経営は一段と苦しくなってきたので、この危機を打開する方法として人工授精の普及にともない交雑

種牛スマールを生産して酪農肥育牛農家の経営改善を図ることとした。

これは茨城県開拓連の指定した見島牛の種雄牛の精液を組合酪農家が飼養する乳用雌牛に種付けし、産まれたスマールを組合肥育牛農家に提供するほか県開拓連をとおして開拓者の肉牛生産者に素牛として販売するものである。

県開連からまとめて引き取った精液の保管および授精に関する業務は共栄酪農協に委託している。

## 十 大八洲開拓畜産振興部会の結成（平成元年）

入植以来十数年近く続いた組合員の食料不足も昭和三十年後半から自給した上に農産物の販売高も次第に上昇の兆しが見えはじめたので、四十二年には肉用素豚生産センターの設置、牧野改良事業の実施などの養豚、酪農の規模拡大、経営振興対策をすすめ、肉豚、牛乳の生産の向上を図った。

一方、昭和四十五年に乳牛哺育センターを設置して肥育一貫経営をはじめた乳肉牛の生産も、五十年から販売高を伸ばして、国内の需要の伸びとともに経営農家は生産増強に力を注ぎ、専業経営をようやく確立するにいたった。

ところが、昭和四十六年の豚肉の輸入自由化決定で次第に輸入肉の増加がすすむとともに平成三年には牛肉も自由化さ

れ、畜産品の国際化と全国的規模拡大による供給過剰、消費の低迷で、畜産業は国際自由化の波に経営難の時代をいよいよ迎えるにいたった。

酪農においては原乳の減産計画が進められる中で乳肉牛スマールの価格下落により酪農家の経営も逼迫してきた。

大八洲開拓農協の運営上もつと密接な関係にある畜産組合員がこうした状況において苦闘している経営を立て直し、安定確立を図ることは組合の経営を維持するためにも最大の課題であり、経営を健全化して、畜産農家の所得向上の推進を急務と考え、組合は経営者と協議、検討を進めてきたところである。

## 畜産振興部会の活動



平成8年3月4日  
偕拓塾（素住台公民館で）  
講師に島田圭一郎氏（日本農業  
新聞編集制作局長）を招いた



平成5年3月22日  
美野里酪農協の視察（第1班 男子）



平成5年3月31日  
美野里酪農協の視察（第2班 女性12名参加）



第10回関東地区ホルスタイン共進会  
（平成8年11月23日・鈴木宏行さん（左）  
が優等賞受賞）



平成7年  
鎮魂祭に参加



それには、経営改善、技術の向上等振興対策を進めるには、組合の指導体制を強化することがもつとも必要なことは周知のとおりであるが、元来小規模組織であり、技術や能力のある指導者の人的確保が容易でない。組合はそれに代わる方法として平成元年に経営別に養豚部会（会員五名）、肥育牛部会（会員四名）、酪農部会（会員三十三名）の三部会を組織して、会の活動も各部会ごとに自主的運営に委ねて発足し、数年経過した。ところが、酪農部会は毎年活発な事業運営を続けてきたが、会員数の少ない関係もあつたと思うが、養豚、肥育牛の両部会はともにこれまで十分な運営活動が行われなかつたので、このままでは今後組織の目的が達成できないと判断し、再検討の結果、各部会を統合し、大八洲畜産振興部会に組織替えをすることとした。

平成六年二月の酪農部会の総会終了後の会場において、引き続き、今までの各部会の解散並びに発足総会を開き、新たな規約を承認して、会員の畜産経営の確立、強化のために総合的事業運営と各方面の畜産経営者とも広く交流を持つとともに会員の意思疎通を図るため再出発することになった。

大八洲開拓農協組合員は、守谷町と水海道市の両管内に分かれて入植したため、従来から政府が施行した農業対策事業

の導入についても各行政ごとに実施されてきたので、組合の事業運営の面においても統一を欠き、繁雑を要する点が少なかつた。こうした欠点を補い、最近頻繁に政府が樹立する農業施策の対応に適切を期すためにも、両地区の畜産農家は密接不離な関係を保ち同一活動を行う必要があるので、組合財政の可能な限り助成をして振興部会のよりよい運用に資していくとともに、会員は健全なる運営を図らなければならぬ。

## 1 運営委員

酪農部	梅津康則	井上昭
	高橋与志男	吉田覚
	遠藤正敏	佐藤俊文
養豚部	舟生幸四郎	
肥育牛部	佐藤宏弥	
青年部	高橋登	

## 2 役員

会長	佐藤俊文	
副会長	梅津康則	
監事	安孫子茂	石垣健三